

平成27年度 広島県特別支援学校教育研究会 第1分科会

### 障害の重度・重複化に応じた指導について

～ビデオによる授業分析と表情シートの導入によるアセスメントを活用して～  
(指導助言者)川口 敦巴江 (県立教育センター特別支援教育・教育相談部 指導主事)

- (研究スタッフ)
- チーフ 大元 みどり(広島県立呉南特別支援学校 教頭)
  - サブチーフ 浅井 宏規(広島県立広島特別支援学校 高等部主事)
  - 研究スタッフ 澤矢 康太郎(広島県立広島中央特別支援学校 教諭)
  - 倉本 綾子(広島県立尾道特別支援学校 教諭)
  - 西村 彩花(広島県立尾道特別支援学校 教諭)
  - 中野 敏之(広島県立尾道特別支援学校 教諭)
  - 道原 健太(広島県立広島特別支援学校 教諭)
  - 松本 志乃(広島県立広島特別支援学校 教諭)
  - 山田あゆみ(広島県立福山特別支援学校 教諭)
  - 菊田 愛子(広島県立西条特別支援学校 教諭)
  - 村上 愛奈(広島県立廿日市特別支援学校 教諭)
  - 名田 雅子(広島県立呉特別支援学校 教諭)
  - 増村 幸(広島県立庄原特別支援学校 教諭)
  - 山根 晴香(広島県立呉南特別支援学校 教諭)
  - 長島 由香(広島市立広島特別支援学校 教諭)

### 昨年度の研究概要

- 実態把握は、目標が抽象的になりがちで、適切な評価が難しい。
- 生きる力の育成のうち、「表現する力」の育成が重要である。

「表現する力」の向上！！

#### 成果

- 実態把握と実践評価シートの作成により課題が明確化した。
- ビデオを用いた授業分析による授業改善が有効であった。

#### 課題

- 目標設定の数値化が適切かどうか判断しにくい。
- 「表現する力」に関するフォーマルアセスメントが少ない。

### 研究仮説

ビデオによる授業分析を行い、複数の視点で目標設定・指導方法・評価を協議することで、授業改善が進み、児童生徒の「表現する力」がさらに向上するだろう。

### 研究方法

ビデオによる授業分析を取り入れた実践研究

### 今年度の新たな取組

- 1 共通のアセスメントツールを使用  
↓  
同じ視点で協議できる。
- 2 表情シートの作成  
↓  
誰が見ても、児童生徒の環境要因や心理的影響が把握できる。
- 3 ビデオ分析の継続的実行と複数の視点での評価  
↓  
実践の蓄積ができる。

### 実践研究の流れ

- 1 実態把握 → 行動観察  
「重度・重複障害児のコミュニケーションに関するアセスメントチェックリスト」
- 2 実践評価シートの作成
- 3 表情シートの作成
- 4 ビデオによる授業分析

### 表情シートについて

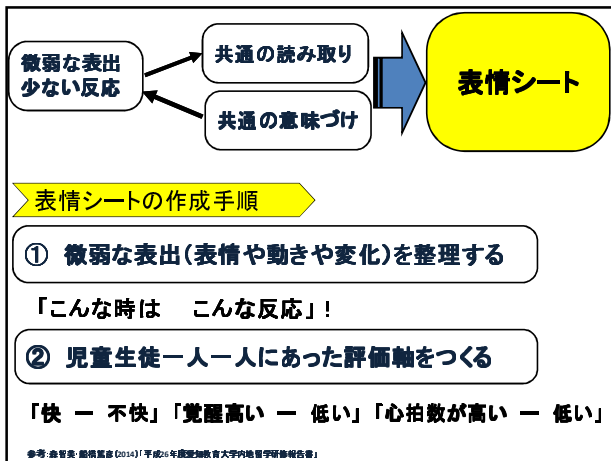
#### 重度・重複障害のある児童生徒の指導の課題

微弱な表出＝反応が少ない

- 主観的な思いこみで、反応を読み取ってしまう。
- 児童生徒の理解や評価が担任によって変わりやすい。

「表現する力」が向上しない！！

参考：藤本定(2013)「障害児総合学校教育センター 特別支援教育実践研究協議会」  
参考：神尾諭治(1991)「多様な障害のある児童生徒の評価の実践」(障害不自由教育)9号



事例

### 1 共通のアセスメントツールを活用

福山特別支援学校のチェックリスト + 実践評価シートの作成

	重要表出	人間関係	聴覚・音響	触覚等	視覚等
I	秩序性の分岐	人の輪かけによる強制感	外界への気付き(聴覚)	外界への気付き(皮膚感覚・味覚・嗅覚等)	外界への気付き(視覚) 光への反応
II	反応表出の芽生え 大人への注意	人への注意 声への反応	音への注意 音の変化の気付き	外界への興味(聴覚・嗅覚・味覚等)	探察(聴覚) 色への反応
III	期待反応 やりとり予測 要求の芽生え	人への愛着 人への情緒性 やりとりの芽生え	フレーズへの気付き・意味づけ 音の方向性 音の方向性の気付き	他の単純な操作 因果関係の理解の芽生え	探察(聴覚) リーチング 触覚運動
IV	要求表出 言葉の表出 問いかけの理解	自分への気付き 他者の立場関係 他者意識の理解	言葉の理解の芽生え 言葉への応答	探索的操作 因果関係の理解	探察的操作 物の本質性 探察的変化への興味
V	大人の注意を引く 要求手段の多様化 物に要求	やりとりの拡大 共通性の芽生え	発声の芽生え 言葉の理解		目と手の協応 空間認知 模倣
VI	要求の高体化・明確化 言語等での要求	社会性の芽生え 自己意識・他者意識の高まり	言葉の活用 質問への応答 両眼協働による視覚の理解		認知の育ちによる操作の拡大 記憶の活用 マッピング 数量概念

2 表情シートの作成

3 ビデオ分析 (取組:「タンバリンを鳴らしましょう」)

【目標】

左側に提示されたタンバリンを見て、右手で叩くことができる

ビデオ

協議の流れ

### 1 表情シートを活用して

どんな状態→①  
理由・・・頭部の振戦が少ない、自己刺激の行為が少ない、口元のほころび・・・等

### 2 目標達成のために必要なこと

- 手掛かりとなる刺激を精選する (発達の段階や障害の特性に応じて)
- 教材提示の位置や順序を丁寧に計画する (手立てを細かく、段階的に)
- 自分でできる学習姿勢づくり (見て動ける姿勢を整える)
- その他
  - ・教室を適切な明るさにする
  - ・不要な音楽は流さない
  - ・補助的な身体支援 etc

易 触覚 聴覚 視覚 難

検討事例 : A児 『一本橋こちょこちょ』

ビデオ

### 【付けたい力】

期待反応, やりとりの予測, 要求の芽生え, 人への愛着, 特定のフレーズへの気付き・意味づけ, 音の方向性の気付き, 探索(視覚), リーチング

### 【目標】

くすぐりの前に、教師の方を見て手を伸ばすことができる

○これまでの様子

- ・教師が歌っている時には、じっと動きを止めて目を下に寄せ、聴いている様子
- ・「かいだんのぼってー」のフレーズで、上体がのけ反るようになる
- ・教師のいる位置が正面でない時、手を伸ばすことは少ない

## 研究のまとめ

【研究仮説】  
ビデオによる授業分析を行い、複数の視点で目標設定・指導方法・評価を協議することで、授業改善が進み、児童生徒の表現する力がさらに向上するだろう。

チェックリスト → 表情シート → ビデオ分析

【研究仮説の検証】

- \*ビデオによる授業分析を複数で協議した結果、授業改善が進んだ。
- \*教師の児童に対する手立てが改善し、表現する力が向上した。

## 研究のまとめ

	成果	課題
表情シート	<ul style="list-style-type: none"> <li>○担任や保護者等の関係者で共有できる資料。</li> <li>○健康状態を確認しながら、課題や支援を設定。</li> <li>○次年度の引き継ぎ資料として有効。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○保護者等の関係者と連携して作成。</li> <li>○わかりやすい指標を定める必要がある。</li> <li>○実態の変化に応じて更新していく。</li> </ul>
ビデオ分析	<ul style="list-style-type: none"> <li>○複数の教師で課題を共有。</li> <li>○繰り返し分析することで、児童生徒の変化や教師の支援などを確認改善。</li> <li>○目標を達成したかを行動などで確認。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ビデオを見る観点を決めておく必要がある。(教師の支援、児童生徒の様子等)</li> <li>○協議する際の観点(教材の提示方法、姿勢等)</li> </ul>